

# 成蹊大学新聞



ホームページでも  
記事を公開しております。  
https://www.seikeipress.com

2023年 7月号 NO.333

73RD YEAR (Since 1950)

[2面] 特集・スポーツ

祭り特集 水球班躍進のカギ ほか

発行所 成蹊大学新聞会 (2023年7月19日発行)

〒180-8633

東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1  
学生会館3階302号室

電話・FAX: 0422-37-3905  
MAIL: seikeipress@gmail.com

SEIKI University  
成蹊大学新聞会  
Press

## 2022年度 就職率 97.2%

### ウィズコロナで広がる新たな生活様式

キャリア支援センターが、2022年度卒業生の就職状況を明らかにした。2022年度の実就職率は97.2%と、2021年度から0.7ポイント増加。新型コロナウイルスの収束により新たな採用形態が広がったことに加え、採用人数を抑えていた企業の採用意欲が回復していたことが背景にある。

2022年度は就職希望者1545人のうち、97.2% (0.7ポイント増) に当たる1501人が就職した。就職率を学部別に見ると、経済学部が97.4% (0.8ポイント増)、法学部が97.6% (2.5ポイント増)、文学部が95.8% (増減ゼロ)、理工学部が97.9% (1.4ポイント減) だった。  
※ () は2021年度比

#### ▼主な就職先

文系は東京特別区 (I類) が最多の11人。三菱電機と第一生命情報システムが各7人と続いた。また、三菱系列やアクセンチュア、日本航空に就職する学生も多く見られた。理工学部と大学院理工学研究科はNTTデータが最多の13人、続いてSCSKが10人だった。加えて、三菱電機には6人が就職するなど、大手製造業・システム開発業への就職が多い。

業種別では、性別・学部を問わずにIT業界の割合が増加。背景には、スキル志向の学生や、転勤の少ない働き方を選ぶ学生の増加があるという。企業規模別比率では、大企業 (従業員

500人以上) への就職割合が文系で60.8%、理系で79.9%となった。

#### ▼2022年度就職市場

新型コロナウイルスの流行から3年を迎え、企業の新卒採用意欲は回復傾向を見せている。2022年度卒業予定者を対象とする大卒求人倍率は1.58倍と、2021年度の1.50倍から0.08ポイント増加。しかし、従業員5000人以上の大企業については、求人数を大幅に超える応募人数がいたため倍率は0.37倍と規模別で唯一低下した。

リクルートの『就職白書2023』によると、インターンシップなどの参加率は75.0%となった。企業によっては、インターンシップの参加者から優秀な学生に内定を出す動きも見られ、早期化する就職活動が顕著に表れた。こうした背景から、オンライン形式への対面制限の緩和に伴い、オンラインと対面を併用する面接形式が増加した。

そして、採用活動の様式も変化した。慣れによって対面面接で過度に緊張してしまい、本来の力を発揮できずに後悔する学生も一定数いたという。

2023年度以降は、対面面接を実施する企業が増える可能性があるため、事前の対策は必須だろう。

#### ▼キャリア支援センターより

就職活動において、自己分析は不可欠といえる。なぜなら、最終的に就職先の決断をする際には、複数の企業から内定をもらっても、企業と自身の適性を見極める必要があるからだ。キャリア支援センターでは、自己分析をはじめとする就職活動のサポート体制が整っている。キャリア支援センターの浅香啓主査は「多様なキャリアを積む相談員からコンサルティングを受ける感覚で気軽に個別相談に訪れて欲しい。就職活動を何から始めれば良いかわからない状態でも、行動に移すことが納得内定への第一歩」と話す。

また、後回しになりがちな筆記試験対策も同センターは行っているという。定量的に学生を判断することが可能な筆記試験は、多くの企業で足切りとして導入されている。定期的に開催される筆記試験セミナーや隙間時間を使った計画的な勉強が大切だ。

同センターの本郷有充事務長は「就職活動は大変なことが多々あるが、自己効力感を高め、あえて楽しみながら取り組んでほしい」と話した。

(高橋 寛)

### 2022年度 卒業生就職状況

学部	卒業生	就職希望者数	就職者数	就職率
経済	503	468	456	97.4%
法	406	381	372	97.6%
文	428	407	390	95.8%
理工	370	289	283	97.9%
全学部合計	1707	1545	1501	97.2%

※就職率は就職者数を就職希望者数で割ったもの。  
※就職者数は正規の者と正規でない者の合計。

## 並木道

最近、ある言葉を何度も口に出していることに気が付いた。ちょうどこの文章を書く直前にも、その言葉を口にした。「忙しい」、「時間がない」だ▼「タイパ」という言葉を聞いたことがあるだろうか。これは「タイムパフォーマンス」の略称で、かけた時間に対する効果を指す時間対効果のことだ。昨今、動画コンテンツの倍速視聴をはじめ、日常生活におけるタイパ重視の傾向が見られる▼その一方で、タイパ重視によって時間に追われる感覚が強まりつつあるのも事実だ。『セイコー時間白書2023』によると、回答した全国の10代~60代の男女1200人のうち、約65%の人が日常的に時間に追われる感覚を覚えているという▼「時間を効率的に使いたい」という考え方は古くから存在する。加えて、コンテンツが膨大化する現代において、人々は昔以上に時間を必要としている。現代社会の実情を考慮すれば、タイパ重視はある意味必然なのかもしれない。しかし、本来タイパ重視の目的は、「効率化によって生み出した自由な時間を使って、自らの人生を充実させること」であるはずだ。タイパを重視した結果、常に時間に追われ、人生の豊かさが失われては本末転倒だろう▼現代人には、効率を気にせず過ごす時間をもっと必要なのではないだろうか。要約サイトを見る時間を使って書店を訪れてみたり、音楽を倍速再生やスキップするのと同じく、最後までゆっくり聴いてみたりする。あるいは、空いた時間にあえて何もせずボーっとしてみる。一見すると非効率だが、そうした行動が我々の人生を豊かにするのには欠かせないだろうか▼私が「忙しい」、「時間がない」と口にしてばかりいるのも、効率を求めすぎた結果だろう。たまにはパソコンの手を止めて一息つき、空でも眺めながらぼんやりと時間を過ごしてみるのもいいかもしれない。(前田知哉)

#### 《紙面に関するご説明》

成蹊大学新聞7月号NO.333より、従来の学内面と文化面を統合し、総合面を新設しております。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

### 輝け文化部 あじさい文化祭

8月11日と12日に本学にて「あじさい文化祭」が開催される。標榜とは異なり、学習院大学・成蹊大学・成城大学・武蔵大学の四大学合同で行う文化祭だ。文化部が寄り集まっている様子をアジサイの群生に見立てたことから名称された本イベントは、各校から集まった約30団体が様々な企画を実施する予定となっている。

企画が始まった背景として、文化部の活躍の場が少ないことがあったという。運動部は、学内運動競技大会や四大戦、さらには部が参加する大会などがある。一方、文化部は主に標榜のみであった。文化部が活躍できる行事を増やしたいという思いと、森雄一学長や経営学部の伊藤公哉学生部長からの後押しを受け、本学の鈴木楓文化会本部委員長 (総合経営3) が発起人

となり企画がスタートした。文化祭の準備について「大学同士で足並みをそろえることが最も大変だ」と鈴木さんは語った。大学によって校風や制度、文化会本部の立ち位置が異なる。また、考え方の違いから意見が衝突することもあるそうだ。そうした中でも、鈴木さんは各大学と密に連絡を取り、参加団体の希望する企画が実現できるように準備を進めている。

本文化祭では、「城学蹊蔵くん」がゆるキャラとして活躍している。このキャラクターは「復刻」をテーマに、本学美術部の部長によって考案された。1972年に歴史が途絶えた「四大学合同文化祭」の復活から着想を得ており、文化祭の広報を担当している。この文化祭を何十年も続くものにするには、簡単な道のりではない。鈴木さんは「0を1にするのは関係者だけでできるが、1を2にしていくには参加者の声も必要になる。皆さんに満足して帰ってもらうことを大事にしたい」と語った。(石黒茜子)

### 管弦楽団 サマコンに想いを

6月16日、本学管弦楽団のサマーコンサートが行われた。客席はほぼ満席状態で、会場は熱気にあふれていた。公演後、部長の岡部美月さん (英文文3) とコンサートマスターの菅原理さん (総合経営3) に話を聞いた。

今回のコンサートでは、メイン曲としてベートーヴェン交響曲第5番『運命』を演奏した。活動が制限されたコロナ禍を経て、本来の活動ができるようになった現在。暗い調子から始まり、明るくフィナーレを迎える『運命』を、こうした自らの現状に重ね合わせて選曲に至ったという。

今回のような規制がない形のコンサートの公演は、コロナ禍が明けてから初めてだった。集客のために、広告にも力を入れて準備を進めたという。「不安もあったが、お客さんがたくさん入ってくれて安心した」と2人は語る。一方、コンサートを終えて課題も明らかになった。部員の意識が高まるも、先輩部員の引退と新入生の入部が重な

り、活動が不安定だったという。下の代に引き継ぎができるように日々試行錯誤を続けている、と岡部さんは前向きな意欲を示した。

一般のオーケストラとは違い、大学のオーケストラの演奏は、大学に在籍している学生や卒業生など、団体と関係がある人が聴きに来る。菅原さんは「クオリティの追求はもちろん、そのようなつながりを持った人に届くような熱量ある演奏をしたい」と観客への思いを述べた。

本学管弦楽団は12月に第54回定期演奏会を控えている。定期演奏会に向けて技術面に磨きをかける過程で、部員の団結も深めていくという。次回の演奏会に期待が高まる。(菅野菜乃)



サマーコンサートの様子  
撮影: 塩澤一洋教授

### コロナ禍を経た留学の今

新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に引き下げられたことに加え、入国時の水際措置が撤廃され、海外渡航もスムーズになった。こうした状況を踏まえ、本学の留学の現状や留学制度の詳細について国際教育センター国際課の松尾隆さんに取材した。

1号館2階にある国際教育センター国際課では、事前予約なしで月曜日から土曜日まで、学生からの留学に関する質問に対応している。また同課では、留学した学生の体験談をまとめた留学レポートを公開。Seikei-WiFiに接続していれば、国際教育センターのホームページからの閲覧が可能だ。

本学からの留学生派遣は、新型コロナウイルスに伴う渡航制限により、一時中断された。しかし、現在は派遣も徐々に再開され、本学から留学する人数はコロナ前の水準に戻りつつある。本学から海外の大学に留学する方法としては、その目的に応じて、主に学部留学と語学留学に分けられる。学部

留学とは、留学先の専門科目授業やゼミを、英語またはその他言語で受ける方式だ。この場合、出願資格として一定のGPAとTOFELやIELTSなどの語学スコア証明が必要になる。対して、語学留学とは、英語や第二言語を学ぶに行く留学であり、出願資格としてGPAや語学スコア証明は求められないケースもある。留学手続きには時間を要するので、早めの準備が必要だ。

留学中の現地での生活費は自己負担であることに加え、留学先の国によって状況は異なるが、ビザの規定でアルバイトが許可されない場合もある。しかし、本学は海外留学に関する授業料免除制度と奨学金制度が充実しており、金銭面での負担は軽減される。留学では「何のために留学をするか、何をどのように学びたいか」という目的を明確にしておくことが重要だ。特に大学3年生で留学する場合、その間就職活動との両立が困難になる場合が考えられるため、就職活動のことはキャ

### 成蹊大学新聞会 2022年度決算報告

収入合計	¥1,190,897	支出合計	¥1,190,897
前年度繰越金	¥535,895	印刷費	¥463,265
学生会部援助金	¥418,000	旅費交通費	¥35,096
成蹊会援助金	¥50,000	通信運搬費	¥85,024
広告収入	¥182,000	消耗品費	¥22,154
諸収入	¥5,000	広告宣伝費	¥61,854
利息	¥2	諸費	¥45,409
		次年度繰越金	¥478,095



# SATORI GROUP

## Technology Solution Global

手を伸ばすと、指先に“未来”が触れた……。

挑戦する楽しさを、やり遂げる喜びを分かち合いたい。

# FORESIGHT

もっと先へ、もっと未来へ

会社概要

- 設立 1947年
- 資本金 26億1100万円
- 売上高 (単体) 445億9300万円
- (連結) 1258億5000万円
- 株式上場 東京証券取引所プライム市場
- 事業内容 電子部品・電子機器の販売及び、これらに付帯する事業
- 子会社
  - 佐鳥パインックス
  - スター・エレクトロニクス
  - 佐鳥SPテクノロジ
  - 台湾佐鳥
  - 香港佐鳥
  - 佐鳥貿易 (上海)
  - 佐鳥貿易 (深圳)
- 韓国佐鳥
- シンガポール佐鳥
- タイ佐鳥
- 佐鳥E-テクノロジー
- 佐鳥ドイツ



## 佐鳥電機株式会社

http://www.satori.co.jp/

代表取締役社長執行役員 佐鳥浩之 (経 済 1989年卒)





日本の夏といえば夏祭りではないだろうか。参道に屋台が立ち並び、神輿を担いで汗水垂らし、太鼓の力強い音が響く。しかし、そんな身近な夏祭りについて、私たちはあまり理解していないのかもしれない。今回は日本の祭りの起源や継承、抱えている課題について特集した。

## 日本人に根付く祭りの文化

### 祭りという文化

祭りの語源は「神にたてまつる」と考えられている。そのため、日本において祭りは神をもてなすために始まったと推測される。

現代日本の祭りには、アニミズム的な価値観を持つ神道が根底にある。加えて、飛鳥時代に伝来したとされる仏教などさまざまな信仰や考え方が祭りに影響を与え、形成している。

その中でも、日本神話が祭りという文化に与える影響は大きい。例えば、祭事の際、神前で執り行われる「神楽」は日本神話における「天岩戸伝説」が起源となっている。この神話は須佐之男命に対して怒り、天岩戸に引きこもってしまった天照大神に岩戸から出てきてもらうために、天鈿女命がその前で踊ったという伝承だ。

神話が神楽の起源となったように、神代から脈々と受け継がれてきたこの文化を、祭事を通じて学ぶことは普通の生活と一味違ったものとなるだろう。夏休みの期間に地元や全国の祭りを訪れ、私たちのルーツに思いをさせてみるのはどうだろうか。

### 祇園とねぶた

#### ▼祇園祭

祇園祭は7月に行われる京都の祭りであり、その開催期間は1ヶ月にも及ぶ。多い日には30万人以上の観光客が訪れるという祇園祭。平安時代から千年以上続くこの祭りは、全国の祭りに影響を与えており、各地の夏祭りの起源となっている。そのため、全国の夏祭りには祇園祭と同様に、疫病などの災いを鎮め、悪霊を追い払うという目的のものが多くある。

#### ▼ねぶた祭

青森県内では各地で「ねぶた祭」と呼ばれる祭りが行われている。この祭りは、睡魔を払うことや死者を供養するために始まったとされている。紙と木によって作られたねぶたには、人形と扇型と呼ばれる2種類が存在しており、どちらも非常に迫力がある特徴的な姿をしている。近年はアニメなどのコラボも盛んだ。(清水翔太) <参考文献> 『日本の祭り解剖図鑑：その起源と日本人の信仰が丸わかり』(久保田裕道、エクスナレッジ、2018年)

## 祭りの継承 伝統と柔軟性

日本に深く根付いている祭り。夏になると多くの人が、夏祭りに足を運ぶ。日本の伝統的な祭りは、現代においてどのように継承されているのか。都市祭礼を研究する法政大学社会学部社会学科の武田俊輔教授に話を伺った。

祭りの名譽な役に選ばれるための競い合いや、先祖から引き継ぐ責任感、継承の要因となる。ただそれだけでなく、祭りの継承にはヒト・モノ・カネ・技能などの資源が不可欠だ。これらは地元から調達するものと、行政やボランティアなど外部調達のものに大別できる。戦前は都市の祭りは囃子や山車の曳行などで、外部から人を雇うことが主流だった。しかし、人手や資金の不足から、戦後は地元での育成に注力するようになった。

祭りの継承は口伝が多く、新型コロナウイルスの影響は大きかった。一方で祭りの過去を見直す機会にもなり、継承の方法を見直すことにつながった。決まった方式を受け継ぐだけでなく、時代に合わせる柔軟性を備えることも、祭りの継承には重要である。こうした背景からコロナ禍においても、形や規模を変えて祭りは水面下で行われていた。武田教授は「祭りの継承には、祭りの可能性を広げる先読みのできる人が必要」と語った。今年の夏は、祭りの可能性を考えてみてはどうか。(高瀬菜穂子)

## 地域と学生 祭り存続への希望

祭りは今、存続の危機にひんしている。過疎化や少子化、若者の流出による担い手不足が大きな課題だ。将来の担い手はもちろん、現在祭りを行う人員さえ足りていない所も多い。

NPO日本の祭りネットワーク理事兼事務局長の加藤正明さんは「祭りの衰退は地域の瓦解を招く」と話す。祭りは人々のつながりを再確認する機会となり、日頃の声掛けや有事の際に助け合える関係を作る。地域の人々にとって祭りは祭り以上の意味があるのだ。祭りが開催危機にひんする一方、地域と学生の協働により開催されている

祭りがある。新潟県関川村とNPO法人国際ボランティア学生協会(IVUSA)による「えちごせきかわ大したもん蛇まつり」はその一例だ。ギネス世界記録に登録された「竹とワラで作られた世界一長い蛇」を担ぐこの祭りは、100~200人の学生に力を借りている。

祭りの人員を補うだけでなく、学生には別の働きも期待されている。地域の存続のためには、村の一人一人が地域を支える必要がある。ボランティアで参加している学生には、そうした地域に貢献していく精神を村の人に伝える役割もあるようだ。

祭りを通した地域との交流は学生にとって貴重な経験となる。IVUSAの活動に参加した冨塚さんは、新しく出会う村民との関係に苦労するも、「また来てね」という言葉が嬉しく、再び

訪れたいと話す。IVUSAのOBOGには関川村を第二の故郷と感じ、十数年来の付き合いをする方もいる。

祭りは新たな人とのつながりを築き、旧知の人とはその絆を再確認させる。そうした視点を持つ参加者が増えれば、祭りの存続に希望を持つことができるかもしれない。(秋田彩夏)



大したもん蛇まつりの様子

## 本格再開 三鷹阿波おどり

8月19日と20日に、本学に隣接する三鷹市で阿波踊りが開催される。三鷹阿波おどりの魅力や現状について、主催者である三鷹阿波踊り振興会の星野博志副会長にお話を伺った。

今年で56回目を迎える三鷹阿波おどりは、阿波踊りとしては都内で2番目の歴史を持つ。地域振興を目的として始まったこの祭りは、コロナ禍前には1日に7千~1万人の観客を動員したという。

この祭り最大の魅力は、演者と観客の近さだ。駅前通りの行進ことから、鉦・笛・太鼓などのお囃子や踊り手が観客の目の前を通り過ぎる。観ていた人が飛び入り参加できる「飛び入り連」があるなど、祭りの魅力を最大限に引き出す取り組みがされている。

しかし、コロナ禍ではその近さが裏目に出てしまった。密な状況が起りやすい祭りの性質上、感染状況が落ち着いた限り企画自体が立てられない。昨年は三密を避けるため、事前告

知を必要最小限にし、祭りの規模を縮小するなど、感染対策を万全にして開催することができたという。

今年4年ぶりに従来の規模で開催される予定だ。コロナ前の規模に近づけるため、今年から施される改良も多い。各出演者がとどまって踊る「組踊り」や「輪踊り」がその一例だ。また、複数の連が一緒になり踊る「総踊り」の導入など、新たな取り組みによってさらなる活性化を図っている。

星野さんは「阿波おどりをきっかけに地元を盛り上げるのがゴールだ」と語った。本学のボランティアセンターでは当イベントへの参加者を募集している。興味を持った方は、現地やボランティアセンターに足を運んでみてはどうか。(小川紀寧)



合同連による三鷹阿波おどり

## 編集後記

コロナ禍では密を防ぐために祭りを開催できず、私たちは風物詩のない夏を経験することになった。そこで今回は、本格的に再開した日本の伝統である「祭り」を特集した。

祭りの参加経験が少ない私のように、祭りへ積極的に参加する人は多くないだろう。祭りは人々のつながりを強める力がある。祭りに参加することで、新たな発見があるかもしれない。

そんな祭りが今、危機に直面している。祭りを含め、伝統的な芸能や産業は、担い手不足による問題が深刻だ。継承していくためには変化が求められる。伝統的な印象を持つ祭りは、実はその形を時代とともに変容してきた。旧来の形に執着し、継承できずに無くなってしまふのは本末転倒である。地域で話し合い、納得できる変容の合意点を見つけることが必要ではないか。

夏期休業期間には有名な祭りが多数開催される。祭りを通して伝統を感じ、夏を楽しもうと思う。(新渡戸常明)

# 志水コーチ 水球 水球班躍進のカギを語る

本学体育会水球部水球班(以下、水球班)は、華々しい活躍で注目を集めている。水球班の躍進の結果や結果を生んだ指導方法などについて、水球班専任コーチの志水祐介さんに話を伺った。

水球班は、5月7日から6月12日に開催された関東学生水球リーグ戦2部リーグで優勝。一部リーグの入れ替え戦と、全日本学生選手権(以下、インカレ)への出場が決定した。スポーツ推薦がなく、全国経験のある選手もわずかとあったチーム事情ながら結果を残したことは、極めてまれのことだ。このような異例の躍進の背景には、オリンピックに2大会出場した経験を持ち、昨年から水球班のコーチに就いている志水さんの存在が大きい。

志水さんの指導では、選手の自主性や人間性を伸ばすことに重きを置いているという。自主性の面では、目標設定をコーチや監督が決めるのではなく、学生が話し合い自分たちで決める。



迫力あるプレーを見せる本学選手

その上で、志水さんは目標を達成できるように練習を組む。また、フィジカル班をはじめとする班に選手を班分けし、各班のリーダーが目標を決め、練習スケジュールを決めている。人間性の面では、武蔵野市の学校で水球の派遣授業を行うなど、社会活動に積極的に取り組んでいる。水球班が地域の人から愛され、多くの応援を受ける所以はこうした取り組みにある。志水氏は「単にうまければ良いということではなく、人間性を応援されるような選手になってほしい」と熱意を込めて話した。

快速進を遂げた水球班について、そのカギに3つの要因を志水さんは挙げた。1つ目は、練習時間の短さだ。志水さんは練習の量より質を重視し、平日の練習時間は2時間としている。この練習時間は、他の大学と比べて明らかに少ない。それでも、短時間で質の良い練習をすることで、目に見える成果を出している。2つ目は、目標設定の高さだ。高い目標を掲げることで、日頃の練習基準の向上につながっている。3つ目は、学園からのバックアップ、応援だ。志水さんは、選手にこのような応援が当たり前ではないと日々呼びかけている。

水球班の練習で最も力を入れているのは基礎練習だそうだ。志水さんがコーチに就任する前の水球班は、練習の強度は高くなかった。しかし、志水さん就任後、基礎練習中心のメニュー

にシフトした。その結果、半年ほどで土台が完成し、高難度の戦術にも対応できるようになったという。志水さんの尽力で大きく成長を遂げた水球班の今後の目標は、一部リーグへの昇格とインカレで1勝することだ。志水さんは「いずれは一部リーグで試合結果を残し、インカレでベスト4を獲得するチームにする」と語る。志水さんの指導のもと、目標に向かい日々練習を重ねている水球班。今後の活躍にも大いに期待だ。(山本実玖)

## スポーツ短信

### ▼ラグビー部春季大会を振り返る

本学ラグビー部が春季大会の全日程を終えた。シリーズ「オンテ!成蹊ラグビー」の第2回となる7月7日では、春季大会の成績などについて主将の高島聖三(法律4)に話を伺った。今年度の春季大会の成績は5戦全敗と悔いの残る結果となった。プレー精度が課題として浮上った一方、強豪にもフィジカル面で通用する場面も見られた。格上の相手に手が届く実感は「チームのモチベーションにとって良い収穫だった」と高島さんは振り返る。春季大会で活躍した選手には、CTB 小口鉄平選手(物質生命3)を

## アメリカンフットボール 荒天の下 今季初白星 つかんだ

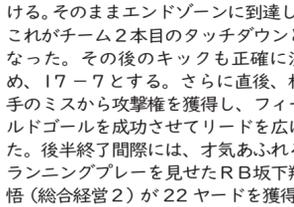
### 《試合結果》 026-07 対東京学芸大

6月11日、アミノバイタルフィールドにて、関東学生アメリカンフットボール春季オープン戦が行われた。対戦相手は東京学芸大。今年度の公式戦初勝利をかけた一戦に臨んだ。

降りしきる雨の中、試合は本学のキックオフから始まった。相手の攻撃を素早く断ち切ると、一気に反転攻勢を。QB石綿将丸(現代経済2)の的確なプレー選択のもと、敵陣19ヤードまで迫る。第1クォーター8分、相手守備の隙間を縫うようなパスがWR山口基樹(法律2)に渡り、タッチ

ダウン。続くキックにも成功し、7-0と先制した。その後も好守備から主導権を握り、第2クォーター9分にはフィールドゴールを決め3点を追加。直後に失点するも、リードを守り切った本学が10-7で前半を折り返した。

第3クォーター、早々から攻勢をかけたのは本学だった。敵陣深くまで攻め込みチャンスを作ると、開始6分には石綿が自らランニングプレーを仕掛けた。その後のキックも正確に決め、17-7とする。さらに直後、相手のミスから攻撃権を獲得し、フィールドゴールを成功させてリードを広げた。後半終了間際には、オアあふれるランニングプレーを見せたR田下翔悟(総合経営2)が22ヤードを獲得。そして残り1分の場面、途中出場のQ



ランニングプレーで前進する本学

田邊太基(システム4)が左サイドを駆け抜け、タッチダウンを決めた。ここで試合終了を目前に相手も棄権。荒天の下、攻守で躍動した本学が26-7と大差で試合に勝利した。

主将の上原大空(国際文化4)は「ボールを濡らして練習するなどの工夫が、悪天候対策に功を奏した。上部リーグ進出のため、あらゆる面で向上を続けたい」と語った。(万浪耀)



ランニングプレーで前進する本学

発行人 高橋 豪  
 編集人 川船 英紀  
 制作 秋田 彩夏  
 万浪 耀  
 星野 佑奈  
 デスク 前田 知哉  
 新渡戸 常明  
 星野 佑奈

〇広告掲載のご依頼は  
 seikeipress@gmail.com  
 までご連絡ください。

成蹊大学新聞

運転免許 成蹊大生御用達自動車教習所!

普通自動車・準中型車・中型車・普通二輪車・大型二輪車 他

2021年・2022年 東京都内 年間三利用者数 2年連続 NO.1

24h オンデマンド 予約制 学科

学生会館で相談会実施中!

車東京 武蔵境 教習所

0120-15-6343 東京車人 検索

成蹊学園紀伊國屋ブックセンター 提携自動車教習所

2023年度 新入部員紹介

学校の中で好きな場所は?

清水翔太(現代経済1) 図書館  
 石黒茜子(日文1) こみちカフェ  
 上村祐葵(現社1) クリスタルキャレル

